

「実り」と「成長」を目指して

詩篇 92 篇 12～14 節

2021 年の教会の指針は「実り」と「成長」です。指針聖句は詩篇 92 篇 12 節「正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます」です。昨年すでに教会手作りのカレンダーに掲載していますのですでにご存知の方も多いいと思います。聖書は、信仰者の歩みをなつめやしの木、レバノンの杉にたとえています。年をとっても衰えることなく、豊かな実を結ぶ姿が「なつめやし」に、神の祝福を受けて、世を去る日まで霊的に成長していく姿が「レバノンの杉」にたとえられているのです。神は、私たちに、なつめやしのように実を結んだことと、レバノンの杉のように成長することを期待しておられます。今年は詩篇 92 篇 12 節のみことばに支えられて「実り」と「成長」を目指して共に歩みたいと願っております。この指針聖句を通じて主のみ心を今一度確認したいと思います。

## 1. 正しい者とは？

先ず第一に「正しい者は栄え、育ちます」とありますが「正しい者」とはどんな人のことを言うのでしょうか？ 正しい者とは品行方正で間違ったことを言わない、しない人のことを言うのでしょうか？「正しい者」と並行して用いられる表現として「心の直ぐな人たち」ということばがあります。例えば「正しい者たち。主にあって喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい」詩篇 33:1 というように。それは「正しい」ということが法律や規則でびっしりと頭や心を取り囲まれ、がんじがらめになっている意味における「正しさ」ではなく、神様に対して純粋な思いを持ち、示されたならばすぐに悔い改め、心を神様に向ける素直さを持っている人のことです。ちなみに「正しい者」に対して「悪者」といった言葉もよく聖書に出てきますが、悪者とは悪どいことを企んだり、実行したりするような人のことを意味しているわけではありません。そうではなく、神に反抗したり、神を認めようとしない人のことを聖書は悪者と呼ぶのです。何故なら基本的に私達は誰であっても罪びとですし、クリスチャンといっても赦された罪びと、赦され続ける罪びとに過ぎないからです。

## 2. 実を結ぶこと

「なつめやし」は、聖書の舞台になっている中東に昔からあった木です。なつめやしは、たくさんの実を実らせ、その実が重くなると、垂れ下がってきて、木のまわりに鈴なりになります。なつめやしは、砂漠のオアシスに生えており、砂漠を旅する人たちは、なつめやしの実、いわゆるデーツを食べて、過酷な砂漠の旅を耐えました。デーツには、鉄分、カリウム、マグネシウムなどの多くのミネラルや、体調をととのえる食物繊維、精神安定効果のあるビタミン A、B 1、B 2 などがバランスよく含まれています。なつめやしの幹や葉は、乾燥させて家の屋根にし、樹木の繊維からは縄を作りました。なつめやしは、古代のイスラエルの人々にとって、とても親しみ深く、また、利用価値の高い樹木でした。イエスがエルサレムに入城された時、人々は、木の枝を手にとってイエスを出迎えましたが、それは「なつめやし」の枝だったと言われています（ヨハネ 12:13）。

神は、神を信じ、神に従う者に、実を結ぶことを期待しておられます。エペソ 5:11 には「実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出さない。」テトス 3:14 には「私たち一同も、なくてはならないもののために、正しい仕事に励むように教えられなければなりません。それは、実を結ばない者にならないためです。」と教えられています。どんなに長い人生を送ったとしても、そこに実が結ばれることがなかったら、なんとむなしいことでしょうか。主イエスは弟子たちに「あなたがたが

わたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためです。」ヨハネ 15:16 と言っておられます。主イエスの弟子である私たちは、実を結ぶことが期待されているのです。

では、この「実」とは何でしょうか。神を知らない人々は、子孫や財産、名声や業績を残すことだと考えるかもしれませんが。しかし、聖書がいう「実」はそのようなものではなく、もっと霊的なものです。

財産や名声、業績などといったものは、永遠には残りません。どんなに名を残そうとしてもそうしたものはやがて消えていきます。しかし、「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。」コリント第一 13:13 とあるように、神のことばによって養い育てられた信仰は、いつまでも残ります。私たちは「信仰」という、いつまでも残る実、他の人に感化を与え、次の世代に引き継ぐことのできる実を結びたいと思います。財産や名声、知識や業績などは、人々の注目を浴びはしますが、決して、他の人に感化をあたえ、その心に神への信仰を呼び覚ますことはできません。それができるのは、その人の持っている信仰だけです。信仰は信仰を持つその人にとっての力となるだけでなく、他の人をも変えていく力になるのです。信仰から希望が、希望から愛が生まれます。信仰がなければ、希望の実も、愛の実も結ぶことはできません。私たちは、まず、信仰の実を結び、多くの人にそれを分け与えるものになりたいと思います。

### 3. 成長すること

神は、また、神を信じるものに、霊的な成長を求められます。木の寿命は、環境によって大きく変わりますが、桜の木で 200 年から 300 年と言われます。杉はもっと寿命が長く、1000 年から 1600 年も生きるそうです。杉の中でもレバノン杉は最も丈夫な木として知られています。しかも、木は、その命が尽きるまで、絶えず成長し続けます。杉の木は年輪を加えるにつれて、根を張り、枝を広げ、天に向かって高く伸びてゆきます。神を信じる者は、同じように、その生涯の最後まで霊的な成長、信仰の成長を求めています。

ですから信仰の成長には、もうこれで良いということはありません。ヨハネ 8:1-11 にある「姦淫の女」の記事で、この女を「石打ちにせよ。」と迫る人々に、主は「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」と言われました。すると、イエスに迫った人々が「年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き」ました。「年長者から始めて」とあるように、人は長く生きればそれだけ罪を多く犯し、自分が罪人であることがより分かるのです。そして罪が分かれば、分かるほど多くの悔い改めに導かれ、悔い改めが深まれば深まるほど、よりきよめの恵みに成長することができるのです。

確かに、年齢を重ねると、記憶力は衰退します。聖書のことばを、若い時のように暗記するのは難しくなるでしょう。けれども、聖書を学ぶというのは、たんに聖書の知識を詰め込むことではありませんから、たとえ記憶力が落ちたとしても、長い人生の経験によって、また、神との交わりの積み重ねによって、神のことばを若い時よりもより深く理解できるようになるはずです。信仰者なら信仰生活が進むと聖書を分析し、解釈し、新しいことを発見するという喜びだけでなく、みことばを黙想し、それを味わうという喜びを体験していると思います。

イザヤ書 56:3 に、こう書かれています。「主に連なる外国人は言うてはならない。『主はきっと、私をその民から切り離される。』と。宦官も言うてはならない。『ああ、私は枯れ木だ。』と。」神は、神に頼る者をレバノンの杉のようにしてくださるのですから、たとえ、年を取って力が衰えてきても、神を信じる者は、「私は枯れ木だ。」などと言わないようにしたいと思います。神は、こうも言われます。「このとき、

野のすべての木は、主であるわたしが、高い木を低くし、低い木を高くし、緑の木を枯らし、枯れ木に芽を出させることを知るようになる。主であるわたしが語り、わたしが行なう。」(エゼキエル書 17:24) 短い年月で成長する木は、幹の密度が薄く、害虫に弱く、すぐに折れ、寿命は短いのです。しかし、レバノンの杉のように、長い年月をかけて成長する木は、1000 年以上も生きます。神は、人間的なものを誇って、もう成長はいらないと言う「高い木」を低くし、神の前にへりくだって成長を求める「低い木」を高くされます。

そしてどんな木もやがて寿命が来て、枯れていきます。時が来て、その場所から取り去られる時がきます。しかし、その実は残るのです。実の中には種があり、種の中には命があります。信仰によって撒かれた種は、あなたの家族の中に、知り合いの中に、そして、多くの人々の中に芽生え、ふたたびそこで実を結ぶのです。レバノンの杉は切られても、神殿の材料として生かされました。神が与えられた人生を、最後まで、信仰の成長を求めて生き抜いた人は、神の家である教会をささえる、柱となり、梁となることができるのです。木は材木になった場合でも、その木が生きた年月、朽ちることなく、建物を支えると言われています。500 年生きた木からとった材木で家を建てれば、家は 500 年持つそうです。教会は、神の宮、神殿です。クリスチャンはひとりびとりその材料です。教会は、信仰の年輪をしっかりと重ねてこられた方が多ければ多いほど、しっかりと建てられていきます。年月がたっても、この世の嵐にうちたたかれても、びくともしない教会になります。たとえ、その人が天に帰られたとしても、その人が残していった信仰は、教会を支える柱となるのです。

信仰の実を実らせること、霊的に成長し続けることはどのような環境や境遇の中に置かれても可能なことです。それこそ今、コロナ禍の中に私たちは置かれていますがそれも信仰の実を実らせ、成長することに大きな妨げとなることはありません。いや、むしろ状況が厳しければ厳しいほど、実を実らせ、成長できる可能性が高いのではないのでしょうか？ 今年も、イエス・キリストを救い主と信じる者は豊かな信仰の実を実らせ、成長し続けると語られているみことばが真実であることを人々にあかししていきたく思います。